**機械システム工学専攻**

**機シ修－30**

**修士論文中間・最終公聴会発表会概要原稿の書き方**

(1 line space)

 **指導 東京 太郎 教授，都市 次郎 准教授**

**0010345 大学 三郎**

(1 line space)

Instruction of Manuscript of Proceedings for Master’s Thesis

(1 line space)

Saburo Daigaku

(1 line space)

A manuscript should be prepared in PDF format. You must submit four pages in A4 size paper with a top margin of 18 mm, left/right margins of 20 mm, and a bottom margin of 26 mm. The title and the name of author should be printed on the first page in both Japanese and English, followed by the abstract, giving a brief account of the most relevant aspects of the paper. Each paper must include five to ten keywords in order to indicate the main topics discussed in the paper and to provide basic terms for indexing. Main text will start with one line spacing above. All figures and tables are positioned within text.

**Key words**: Master’s thesis, Original paper, Guideline for manuscript, Dept. of Mechanical Systems Engineering

(1 line space)

1. **はじめに**

この文書は，機械システム工学専攻で定めた修士論文中間ならびに最終発表会概要原稿の基本的な書式と作成要綱をまとめたものである．この文書で定められた基準は，原稿作成において，すべての著者が必ず守るべき最低限の基準である．よって，著者はよく内容を確認し，細かい部分にも注意して，原稿を作成すること．

ただし，この文書によって原稿作成のすべての項目について定めることは困難である．これは広範囲にわたる本専攻の各研究分野の論文作成基準が少しずつ異なるからである．よって，定義されていない部分については各分野で標準とする作成方法に従うこととし，必ず学科目ごとに統一した書式で原稿を提出するように．

(1 line space)

1. **作成要綱**
	1. **利用環境**

原稿は，Word，LaTeXなどの文書作成用ソフトウェアを利用して作成すること．推奨環境は，Word 2010，LaTeX2eであり，それらのテンプレートは本専攻Webサイトに用意されている．それ以外の環境を利用する場合は，3章に指定された原稿書式に従って作成すること．

* 1. **提出方法**

作成した原稿は，Adobe Acrobat DistillerなどのPDF作成ソフトウェアを利用し，PDF形式のファイルへ変換して提出すること．ファイルサイズは2 MB程度を上限の目安とし，PDFへ変換する際には，原稿内で使用した数式，記号などが正常に表示されるよう，PDFファイルへフォントを必ず埋め込むこと．提出日やその他の詳細については，本専攻Webサイトを参照しなさい．

1. **原稿書式**
	1. **原稿サイズ**

原稿はA4サイズとし，ページ数は，中間発表では4ページ，最終公聴会では6ページとする．上マージンは20 mm，左右マージンは18 mm，下マージンは26 mmとする．

本文は2段組，コラム幅80 mm，コラム間隔8 mmとする．10 ptの文字を基準とし，1行最大25文字（両端ぞろえ），50行（行送り14 pt），2段組（2500文字）とし，フォントは原則として和文は明朝体，英文はTimes New Roman体を使用すること．

* 1. **題名・著者名**

専攻名は1行目左端に10 ptで，概要番号は中間発表会の発表番号に従い，2行目に左ぞろえ10 ptで，題名は3行目に14 pt，中央ぞろえで記載する．

また，指導教員名・著者名は題目から1行空けて，3行以内，10 pt，右ぞろえで記入する．著者名の前には学籍番号を付記し，フォントはすべてボールドゴシック体とする．

* 1. **英文題名・著者名・Abstract**

和文著者名より1行空けて，13 ptで英文タイトル，また1行空けて，11ptで英文著者名，さらに1行空けて，9 ptでABSTRACT（200 words以内）とKey words（5-10 words以内）を両端ぞろえで記載する．フォントはすべてTimes New Roman体とし，AbstractおよびKey wordsについては，文章両端を5 mmずつインデントすること．

* 1. **本文・章題**

本文の書き出しはKey wordsから1行空けて始め，それ以外の書式は3.1節を参照すること．章・節の題名は10 pt，左ぞろえでボールドゴシック体とし，章の間は1行空けて書き始める．

本文中では，句読点に全角コンマ（，）と全角のピリオド（．）を利用すること．また，英数字はすべて半角表記とすること．

* 1. **図表・数式**

図表中の文字は，鮮明に見えるようにその大きさに注意し，基本として英文表記とすること．また，図表は，本文中の説明と離れない位置に置き，図や表それぞれ，あるいは図表と本文は1行以上の間隔を空けて配置すること．図表の幅は，原則として1段の幅（80 mm）以内に収め，大きくなる場合は原稿の2段組の幅の中に収めること．なお，図表の左右には本文を回り込ませてはならない．

写真は図として扱い，印刷時に解像度が十分得られるように注意すること．また，概要集は白黒印刷で配布されるため，印刷時の状況を考慮した判別しやすい図表・写真を掲載するように．

図見出しは図の下に，表見出しは表の上に英文で記載し，数式は式番号を付記すること．また，これらを本文中で参照する場合には，それぞれFig. 1，Table 1，(1)のように表記すること．

* 1. **参考文献**

参考文献は9 ptで表記し，文献番号は[1]，[2]，…とすること．引用の際には，文献[1]のように記載すること．

(1 line space)

1. **その他の注意点**
	1. **修士論文に関する研究成果の記述**

現時点において，著者の修士論文に関する，各分野の学会誌に掲載された学術論文や講演論文集がある場合には，必ず原稿の最後に研究成果として記載すること．書式は参考文献と同じ表記方法とする．

* 1. **学科目内での書式の統一**

第1章でも注意しているが，本文書において原稿作成のすべての基準を定めることはしていない．よって，細かな部分の書式は，学科目ごとの判断に任せる．ゆえに，専攻全体の原稿書式が統一されないことは十分に起こり得るが，少なくとも，提出される概要原稿は各学科目内で統一された書式で表記されたものにするように．

近年，学科目内で書式が統一されない原稿が目立つ．基本書式については本文書の内容を守り，詳細な部分については各研究分野における規則に従って作成することで，学科目ごとに書式の整った美しい概要原稿を提出すること．